

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

【令和元年度分】

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

提出者: 愛知県バス対策協議会

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)
						【計画目標指標: 利用者数】 A: 達成 B: 未達成 C: 目標の半数にも満たず		輸送量(人)		収支率(%)			
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			R1計画	R1実績	(平均乗車密度)	(運行回数)	H30実績	R1実績		
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	01 大沼	東岡崎～大沼	ポケット時刻表・バスマップの作成、携帯・スマートフォンでの時刻表検索、バスロケーションシステムの提供により利用者の利便性向上に努めた。また、沿線市のバスマップ等への掲載や市のイベントでバスの乗り方教室を開催するなど利用促進に努めた。	A	17.3	21.2	3.8	5.6	37.4	39.1	市を跨ぐ利用者は、月平均990人で全体の約18%を占める。その内訳は、通学定期18.2%、得々バス(高齢者用定期券)9.1%、現金・ICSF(定期以外)72.7%である。鉄道(東岡崎駅の利用、沿線学校への通学、中心市街地部への買い物等の利用者が大部分と考える。《地域的・フィーダー的系統》しもやまバス	高齢者用定期券得々バスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。また、市が開催するイベント等に参加しバス展示、乗り方教室を実施し積極的にバスをPRしていく。沿線の岡崎市では市内イベントでの乗り方教室の実施やバスマップの配布を、豊田市ではバスマップやHPなどに路線情報を掲載し、利用促進を図る。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	02 岡崎・足助	東岡崎～足助	ポケット時刻表・バスマップの作成、携帯・スマートフォンでの時刻表検索、バスロケーションシステムの提供により利用者の利便性向上に努めた。また、沿線市のバスマップ等への掲載や市のイベントでバスの乗り方教室を開催するなど利用促進に努めた。	A	32.8	44.8	5.6	8.0	47.0	56.2	市を跨ぐ利用者は、月平均1,680人で全体の13%を占める。通学定期1.8%、通学定期53.6%、得々バス(高齢者用定期券)10.7%、現金・ICSFの定期外33.9%。通学利用の比率が高い。鉄道駅(東岡崎)の利用者、岡崎市内への通学、通院、買物利用者が大部分と考えられる。《地域的・フィーダー的系統》おいでんバス(旭・足助線、稲武・足助線、さなげ・足助線)	岡崎市内の需要の多い区間で利用者数を稼いでいるが、広域幹線の利用の減少傾向は進んでいる。足助地区など観光目的の需要もあるが、現行の運行本数を維持するまでには至っていない。引き続き、沿線市と連携した利用促進を図りながら、利用実態に合わせた運行計画を行い、効率性の向上に努める。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	05 岡崎・安城	東岡崎～安城駅前	乗換検索サイトへの情報提供、時刻表・バスマップの作成、バスロケーションシステムを提供、ノンステップバスへの更新等により利便性の向上に努めるとともに、沿線市ではバスの乗り方教室の開催やバス活用ガイドの作成など、利用促進を図った。	A	20.9	19.6	1.6	12.3	30.4	26.0	鉄道駅(東岡崎、安城駅)の利用者、沿線にある病院への通院、中心市街地部への買物利用のほか、沿線市の利用状況調査によると通勤利用の需要もあり、幹線系統としての役割を果たしている。《地域的・フィーダー的系統》名鉄バス(安城線)、あんくるバス(循環線、安城線、東部線、西部線、作野線)	再編により改善された定時性の確保及び安定した運行による利用者利便の向上に努める。利用者が減少傾向にあるので、今後も継続して周知などの取組みを行うとともに、新たな利用促進策を実施していく必要がある。
名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	43 岡崎・西尾	東岡崎～西尾	沿線地域での催事及び道路状況の情報収集に努め、定時運行の確保を図った。沿線の岡崎市ではイベント等で近隣市町のバスマップを配布し周知を行ったほか、西尾市では高齢者向けに公共交通出前講座の開催や、通学定期補助を行い、バスの利便性向上に努めた。	A	67.6	70.5	4.9	14.4	83.3	77.8	市を跨ぐ利用者は、月平均3,450人で全体の23%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。岡崎市から西尾市への通勤・通学等の交通手段として利用されているほか、西尾市から岡崎市への通勤・通学利用としても使われている。《地域的・フィーダー的系統》名鉄東部交通バス(一色線、寺津線、平坂・中畑線)、(西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いこまいかー	利用者は減少傾向にあるので、その対策の一つとして、利用者の利便性向上のため定時運行の確保が必要である。また、利便性の向上のため、西尾市内の均一運賃化やコミュニティバスとの市内共通一日券による利用促進を図る。
名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	44 岡崎・西尾(西尾市民病院)	岡崎駅西口～西尾	沿線地域での催事及び道路状況の情報収集に努め、定時運行の確保を図った。沿線の岡崎市ではイベント等で近隣市町のバスマップを配布し周知を行ったほか、西尾市では高齢者向けに公共交通出前講座の開催や、通学定期補助を行い、バスの利便性向上に努めた。	A	31.6	36.4	3.8	9.6	64.4	69.0	市を跨ぐ利用者は、月平均1,780人で全体の約32%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。JR岡崎駅と西尾市中心部を結ぶ市域を跨ぐ路線であり、沿線には西尾市民病院、西尾東高校があり通院、通学の足として地域住民の移動手段を確保している。《地域的・フィーダー的系統》名鉄東部交通バス(一色線、寺津線、平坂・中畑線)、(西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いこまいかー	利用者は減少傾向にあるので、その対策の一つとして、利用者の利便性向上のため定時運行の確保が必要である。また、利便性の向上のため、西尾市内の均一運賃化やコミュニティバスとの市内共通一日券による利用促進を図る。
安城市	東伸運輸(株)	62 あんくるバス(東部線)	北部福祉センター～北部福祉センター	利用促進のためのチラシ等を配布する際に、おすすめプランを掲載するなど、できるだけ分かりやすく気軽にバスを使ってもらえるように情報提供を行った。近隣市町の交通担当者同士の情報交換会を開催した。	A	26.2	35.8	5.2	6.9	9.1	11.1	市を跨ぐ利用者は283人/月と想定され、広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。また、鉄道駅への乗換利用や、通勤、飲食・娯楽等のためお出掛け利用者が多いと考えられる。《地域的・フィーダー的系統》名鉄バス安城線、あんくるバス(北部線、循環線、安祥線)	利用者は増加傾向であるが、高齢者が多い地域であるため、乗降調査による交通需要の把握や更なる利便性の向上と利用促進を行い、若い世代等新規利用者の獲得を図りたい。隣接する岡崎市ではイベント等を通じて近隣市町のバスマップを配布するなど周知を継続して行っていく。